下川原焼土人形 馬乗り子ども
青森県 弘前市

下川原焼は日用雑器をつくる津軽藩の御用窯でした。当時の藩主が津軽の地に玩具が少ないことを憂い、冬期の閑眼を利用して土人形をつくることを命じました。以来約200年間、鳩笛や干支笛などさまざまな人形がつくられており、津軽を代表する縁起物として人々から親しまれています。

河保 正志
〒036-8083　青森県弘前市大字新里字上植田 85-2
TEL 0172-27-3766

八幡馬
青森県 八戸市

八幡馬は「日本三大駒」の一つで、八戸で750年前につくられた木馬を原型としています。華やかな模様は南部地方の嫁入りする際の盛装馬の装束を表しています。馬は古来より邪気を祓う神聖な動物として大切にされてきました。幸福、発展、繁栄を願う縁起馬です。

(株)八幡馬
〒031-0071　青森県八戸市沼館 2-5-2
TEL 0178-22-5729

忍び駒
岩手県 花巻市

干支はその年の守り神であり、干支人形を飾ることで一年間家を守ってくれるといわれています。忍び駒は花巻地方で古くから伝えられている藁の馬人形です。縁結びや子孫繁栄、五穀豊穣などの祈願の使い駒として親しまれています。

小田島民芸所
〒025-0098　岩手県花巻市材木町 10-20
TEL 0198-23-4856

キナキナ
岩手県 花巻市

古くから漆器の生産が盛んに行われていた岩手県。南部系こけしは木地師がろくろの技術を活かしてつくったおしゃぶりを原型としており、当地のことばでキックラボッコ、キナキナボッコなどと呼ばれていました。クラクラと首が動き、木地そのままの滑らかな肌触りを活かした仕上げが特長的なこけしです。

工房木偶乃坊
〒025-0014　岩手県花巻市高松 26-35
TEL 0198-31-2165

六原張子 鯛乗り招き猫
岩手県 胆沢郡

張子は通常木型などの外側に和紙を貼って作成しますが、六原張子は凹型の型に成為（なるしま）和紙を丹念に貼り付ける「内貼り」という技法でつくられます。猫が鯛に乗って福を招く、お目出たい招き猫です。

さわはん工房
〒029-4501　岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原東町 50-36
TEL 0197-45-3397

中湯川人形 来らんしょ馬
福島県 会津若松市

会津若松市の山中でつくられる中湯川人形は、数多くの型があり、それぞれ個性的な表情を楽しむことができる土人形です。「来らんしょ」とは当地の言葉で「どうぞ、こちらにお出でください」という意味。三つ指をついて福を歓迎する、招福の干支人形です。

工房 千想
〒965-0815　福島県会津若松市東山町中湯川 256
TEL 0242-28-1640

三春駒
福島県 郡山市

郷土玩具で最初の年賀切手に採用され、「日本三大駒」の一つとされる三春駒。郡山市の高柴デコ屋敷（旧三春藩領）で生まれ、名馬の産地として知られた三春ならではのたくましい馬体が特長です。古くは坂上田村麻呂の伝説に由来する「高柴子育て木馬」という一寸大の馬型木彫が原型といわれ、子育てのお守りとして親しまれています。

彦治民芸（有）
〒963-0902　福島県郡山市西田町高柴字舘野 80-1
TEL 024-972-2412

白河だるま
福島県 白河市

300年ほど前からつくられている白河だるまは、眉は鶴、ひげは亀、頬のぴんひげは松と梅、あごひげは竹を表す、大変縁起のよいだるまです。願いを込めて向かって右側の目に目玉を入れると必ず成就するといわれています。

白河だるま総本舗
〒961-0907　福島県白河市横町 30
TEL 0248-23-9978

佐川だるま製造所
〒961-0907　福島県白河市横町 81
TEL 0248-23-4239

弥治郎こけし
福島県 いわき市

こけしは昔、木地師が子どもに与えた玩具が発祥で、次第に湯治場のお土産ものとして東北地方で盛んにつくられるようになりました。伝統こけしには現在十一の系統があり、弥治郎こけしは宮城県の弥治郎地区で誕生しました。頭のベレー帽のようなろくろ模様が特長で、少女の愛らしい表情が見る人の心を和ませます。

木地処さとう
〒970-8022　福島県いわき市平塩字地蔵内 92-3
TEL 0246-22-0246

仙台張子 午
宮城県 仙台市

仙台でつくられている小さな張子の干支人形です。十二支は時を表す単位として用いられており、紀元前の中国で文字の読めない庶民にも理解できるよう動物の名をあてはめたのが起源とされています。和紙の風合いをそのまま活かしながら、繊細な細工が施され、かわいらしく首が動きます。

所 おしめ工房
〒980-0001　宮城県仙台市青葉区中江 2-8-5
TEL 022-222-8606

堤人形 招き猫
宮城県 仙台市

堤人形は伊達政宗公の時代に藩内の産業発展のため始まりました。現在でも当時の型を使ってつくられており、千数百個にのぼる土型の一部は、仙台市の有形文化財に指定されています。招き猫は全国の郷土玩具に見られますが、堤人形の招き猫はとりわけりりしい表情で華やかな模様をまとっています。

つつみのおひなっこや
〒981-0912　宮城県仙台市青葉区堤町 2-10-3431
TEL 022-233-6409

古食人形 兎
新潟県 佐渡市

佐渡島ではかつて皇族や朝廷の高官が流刑に処されたことにより都の文化が盛んに持ち込まれました。江戸時代には金山も栄えたことから、離島でありながら精神文化の豊かな土地として発展し、土人形も数多くつくられました。古食人形はかつて佐渡島で親しまれていた「八幡人形」を複製したことから始まっています。

古食庵
〒952-0502　新潟県佐渡市羽茂大崎 2025
TEL 0259-88-3096

浦佐の猫面
新潟県 魚沼市

浦佐の猫面は、かつて新潟県南魚沼市浦佐の普光寺の里沙門堂で「魔除けの猫面」として売られていました。江戸時代の化け猫退治の伝説から生まれ、浦佐の裸押し合い祭のもとになったといわれています。

早津ギャラリー
〒946-0043　新潟県魚沼市青島 1501-16
TEL 025-792-1451

替え物 うそ・亀
富山県 富山市

かつて富山県では替え物という神事が盛んに行われていました。神社で授与される土人形を他の参拝客と交換することで「前の年の悪しきことを嘘に替え、良きことを真にする」といういわれがあり、鳥（うそ）という鳥や、縁起物の土人形が今でも残されています。
※当には3種類の中の一点が入っています。

土鼓窯
〒939-8181　富山県富山市若竹町 4-64
TEL 076-429-3918

とやま土人形 犬と瓢箪
富山県 富山市

とやま土人形は、江戸時代末期から発展し、縁起物や民間信仰の神像、子どもの玩具など、様々な土人形がつくられ親しまれてきました。犬はお産が軽いことから安産、ひょうたんは種が多いことから子孫繁栄の縁起物として信仰されてきました。

とやま土人形伝承会
〒930-0881　富山県富山市安養坊 1118-1
TEL 076-431-4464

加賀八幡起上り
石川県 金沢市

八幡さん（祭神応神天皇）がお生まれのとき、深紅の錦で包んだという故事になぞらえ、子どもの成長と幸福を祈ってつくられました。箪笥の中に入れておくと衣装が増えるといわれています。

(株)中島めんや
〒920-0902　石川県金沢市尾張町 2-3-12
TEL 076-232-1818

加賀魔除虎
石川県 金沢市

金沢に数多くある玩具は、江戸時代後期に加賀藩の下級武士の手内職として広まり、正月の市や祭礼の際に売られていました。加賀に古くから伝わる張子の虎は、その威を借りて魔を払い勇武を念じる縁起物としてお節句に飾られます。

(株)中島めんや
〒920-0902　石川県金沢市尾張町 2-3-12
TEL 076-232-1818

米食いねずみ
石川県 金沢市

「心ゆくまで米を食べたい」というかつての庶民の願いをこめてつくられたカラクリ仕掛けの人形です。ねずみがコツコツと音を立てて米を食べる姿から、「コツコツお金が溜まる」縁起物として親しまれています。

(株)中島めんや
〒920-0902　石川県金沢市尾張町 2-3-12
TEL 076-232-1818

うるしダルマ
福井県 小浜市

うるしダルマは、うるしの塗箸の生産地として有名な福井県若狭地方でつくられる工芸品です。塗箸でも使われる合成うるし（※）を固め、削りだして加工した独特のだるまで、起き上がり小法師を原型とするだるまとは異なり、三角形や台形などの「転ばない」かたちが、受験のお守りとしても珍重されています。
※合成樹脂のため、本製品は本漆（うるし）製ではありません。

ツカモト民芸センター
〒917-0001　福井県小浜市福谷 8-29-8
TEL 0770-52-2590

五箇山の紙塑民芸品 馬
富山県 南砺市

世界遺産の合掌造り集落で有名な富山県五箇山では古くから手漉き和紙の生産が行われていました。和紙生産の際に出る原料の端材を再利用し、手づくりの紙粘土に加工します。紙粘土を型に押し込み、形づくって着彩したものが紙塑人形で、伝統的な獅子頭や干支の人形など愛らしい縁起物がつくられています。

農事組合法人五箇山和紙
〒939-1923　富山県南砺市下梨 148
TEL 0763-66-2016

甲州親子だるま
山梨県 甲府市

400年以上の歴史がある甲州だるま。生糸と綿の産地であった山梨では、豊作を祈り白いだるまを祀る習慣が広まり「木綿だるま」とも呼ばれていました。後にうまれた親子だるまは、家内安全、子孫繁栄を祈り、腹に子どもを抱いています。神棚に祀った際に、拝む人とだるまの親の目が合うよう、目線が工夫されています。

民芸工房がくなん
〒400-0062　山梨県甲府市池田 2-3-27
TEL 055-252-7661

鳩車
長野県 下高井郡

野沢温泉村は古くから湯治客が訪れる温泉地です。雪深い冬の産業としてあけび蔓で生活の道具がつくられていました。伝統的なあけび蔓細工の技法を生かし、子どもの遊び道具としてつくられた鳩車は、善光寺の鳩にちなみ、福を呼び込む縁起物として親しまれています。

西方民芸店
〒389-2502　長野県下高井郡野沢温泉村大字都倉郷 4370
TEL 0269-85-2455

上田獅子
長野県 上田市

上田獅子（常田獅子、房山獅子）は、真田幸村の父、昌幸が上田城を築城する際、地固めの式で舞われた伝統的な獅子舞です。上田では大正時代の農民美術運動により木彫りの手工芸が盛んに広まり、上田獅子の木彫りを縁起物として慶事などに贈り合う習慣があります。

クラサワ工房
〒386-0411　長野県上田市生田 2085
TEL 0268-42-4685

藤枝だるま
静岡県 藤枝市

「八雲だるま」とも呼ばれる藤枝だるま。頬のひげが8の字になっているのが特長です。焼津に避暑に来ていた小泉八雲が目にして、自分の名前の「八」と「8」の字が同じだと喜び、小説の中にも描かれました。だるまは転んでも起き上がることから、七転び八起きの縁起物として大切にされてきました。

藤枝だるま
〒426-0018　静岡県藤枝市本町 1-1-24
TEL 054-641-1859

西尾の狆
愛知県 西尾市

狆（ちん）は日本原産の犬で、江戸時代にはお座敷犬としてかわいがられていました。犬は多産でお産が軽いことから、安産のお守りとして、ひとつを氏神さまに、ひとつを手元に置いておくとご利益があるといわれています。

吉良の赤馬
〒445-0014　愛知県西尾市つくしが丘 6-6-4
TEL 0563-52-4431

吉良の赤馬
愛知県 西尾市

吉良の赤馬は愛知県西尾市で300年以上前からつくられている練り物の人形です。有名な「忠臣蔵」では敵役として知られる吉良上野介は、この地では名君として親しまれており、赤馬に跨がって領内を巡視したと伝えられています。

吉良の赤馬
〒445-0014　愛知県西尾市つくしが丘 6-6-4
TEL 0563-52-4431

旭土人形 餅つき兎
愛知県 碧南市

陶磁器の産地にほど近い愛知県三河地方では良質な土が採れることもあり、江戸時代から各地で冬の農閑期を利用して土人形が盛んにつくられてきました。土人形は「おぼこ」と呼ばれ、ひな祭りが近づくと行商の人が売り歩いたといわれています。素朴なかたちに施された色鮮やかな彩色が特長です。

おぼこや
〒447-0816　愛知県碧南市志貴崎町 2-19
TEL 0566-42-2014

乙川人形 招き猫
愛知県 半田市

乙川人形は、およそ200年前、飛脚を生業とした初代が、京都で目にした伏見人形に心をひかれ、試行錯誤を繰り返しつくりあげた土人形です。常滑焼などに見られる一般的な陶製の招き猫は、乙川人形を原型としているといわれています。千客万来、商売繁盛、福を呼び込む招き猫です。

乙川人形屋
〒475-0048　愛知県半田市乙川陣田町 170
TEL 0569-21-5056

猿ぼぼ
岐阜県 高山市

岐阜県飛騨地方では赤ん坊のことを「ぼぼ」といいます。猿ぼぼは猿の赤ん坊の人形で、古くは親が子の成長を願いながらつくり、玩具として子どもに与えたものです。赤は魔除け、疫病除けの色として、かつての女性のお腰（着物の下に着ける下着）にも使われ、猿ぼぼはお腰の生地でつくられていました。

円空洞
〒506-0025　岐阜県高山市天満町 6-7
TEL 0577-32-1385

伊勢一刀彫 馬
三重県 伊勢市

伊勢一刀彫は、宮大工が伊勢神宮の御残材を使ってえびす大黒などを彫ったのが始まりといわれています。少ない手数で的確に対象物をとらえる手法でつくられています。力強い彫り跡と白木の風合いが、厳かな印象を与えます。

(株)宮忠
〒516-0036　三重県伊勢市岡本 1-2-38
TEL 0596-24-0128